

災害時のトイレはどうする？～ジェンダーの視点で考える防災～

あびこ女性会議

1 地震発生時 水洗トイレはすぐには使わない



- 便器やトイレ周辺は壊れていないか
- 停電していないか 断水していないか
- 配水管は壊れていないか
- 下水道は使えるか(市からの情報を確認)

※トイレが壊れていても、水を流さないで。
お風呂の溜め水も確認してから流してね！

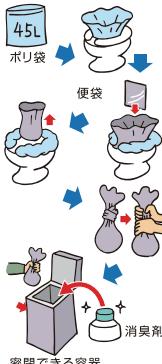
外出先のお店や事務所、
また避難所のトイレも同じ。

確認しないで
使ってしまうと、
こんなことにも。



2 家庭で用意しておきたいトイレ用品

水を流せないときには
「便座取り付けタイプのトイレ」が便利



使い方

- 便座を上げ、ポリ袋を便器にかぶせる
- 便座をおろしポリ袋(便袋)を設置
- 用を足し、汚物を固める
 - ▲吸収シートタイプ:凝固シート
(紙おむつ、ベットシート)などで固める
 - ▲粉末状・錠剤の凝固剤のタイプ:
用を足す前、もしくは後に振りかけて固める
- 便袋だけを取り出し、空気を抜いてしっかり結ぶ
- 密閉できる容器で収集まで保管する

※このタイプはスティックもしやすい。
使い方を確認しておくことが大切！

持ち歩きタイプ

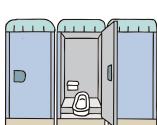
- 持ち歩きタイプの携帯トイレも便利。
- トイレットペーパー、ウェットティッシュ、尿とりパット、リハビリパンツなども備えておくと良いでしょう。



3 避難所のトイレをより使いやすく

避難所のトイレ(仮設トイレ)の問題点。

- すぐには設置されない。
- 男女兼用だと女性が使いにくい。
- 段差があつて高齢者は使いにくい。
- 和式トイレだと高齢者は使えないことも。



- 数が十分ではない。
- 暗くて怖い。不安。
- 遠くて行きにくい。

みんなが使いやすく、安心して
使えるトイレに。

特に女性や高齢者などに配慮されたトイレがほしい。

女性への配慮

- 男性用女性用は別々に。
- 女性用を多く(女性のトイレ時間は男性の3倍)。
- 照明を付けて明るく。
- カギも掛かるように。
- できれば防犯ブザーも。



高齢者等への配慮

- 段差をなくして。
- 洋式トイレの設置を。
- トイレまでの経路も行きやすく。



4 安心できるトイレが健康と安全を守る

トイレの問題はつきの問題を引き起します。

●体調不良や病気のリスクが高まる

トイレに行くのをがまん、水分を控える、あまり食べない。



脱水、便秘、脳梗塞、エコノミークラス症候群などのリスクが高まり、やがては災害関連死につながる恐れも。

●性犯罪につながることも

避難所のトイレは人目につきにくい場所にあります。
このため性犯罪につながる危険も。

女性や子どもは1人で行動しないことが大切です。

トイレ問題の軽減のために

備えよう

トイレ用品の備蓄をしましょう。最低でも3日分。
できれば1週間分。

きれいに保とう

自宅のトイレも、避難所のトイレもきれいに。

トイレはきれいに
使いましょう。
みんなで協力して
掃除しよう！



あびこ女性会議

代表 佐竹 礼子

電話 04-7139-6219

住所 我孫子市

若松172-3

あびこ女性会議は、1996(H8)年10月の発足から28年となる市民グループです。女性であれ男性であれ、誰もが「男だから」「女だから」といった社会的に作られた性別(ジェンダー)からくる役割分担を押しつけられたり、偏見や差別、不平等を受けたりすることなく、自分らしく生きられる社会の実現を目指すというのが、活動の目的です。

主な活動としては、月1回の学習会・定例会、市との共催イベントです。